

「かながわ人づくりコラボ2010」の実施結果概要

1. 開催の趣旨

かながわ教育ビジョンに基づき、「かながわ人づくりコラボ2010」を開催し、実践的な取組みの紹介や県民との教育論議等を通じて、様々な主体との協働・連携による人づくりの一層の推進を図る。



2. 開催の状況

- (1) 開催日時： 平成22年11月27日(土) 13:30～16:30
開催場所： 県立湘南高校 多目的ホール
- (2) テーマ： 「見つけよう！自分の道」
- (3) 内容： ◇ 講演「若かりし日の夢 ～意志あるところに道あり～」
◇ 実践紹介
「ものづくりの理想を求めて ～七里ヶ浜でウクレレを～」
「楽しい体験を地域でプロデュース」
◇ 教育論議「今、始めることの大切さ ～自分の道を拓くために～」
- (4) 参加者数： 319名

3. 講演「若かりし日の夢 ～意志あるところに道あり～」

(湘南工科大学 学長 谷本敏夫 氏)

先端材料学の分野において著名な研究者である谷本氏は、これまでのご自身の経験を踏まえながら、若い頃から夢や目標を持ち、それに向かって努力をすることの素晴らしさ、大切さについて熱心に語られた。

谷本氏は、小さな頃から好奇心旺盛で、運動や語学などいろいろなことに興味を持っていたが、高校生の時に理系の勉強に目覚め、大学教授となり国際的な研究者になることを決意した。以後、この夢、目標の達成に向けて研鑽を重ねた。

大学進学後は授業で最前列に座り、猛勉強をした。また、大阪万博の会場で外国人のスタッフなどに話しかけて実践的な英会話をマスターし、国際会議等で研究発表をすることができた。

こうした努力の甲斐があり、若くして博士号を取得したが、大学の研究職員として残ることが叶わなかった。それでも、他の大学で非常勤講師の掛け持ち等をしながら研究を続け、夢を追い続けた。ようやく研究の成果が認められ、アメリカのコロンビア大学から誘いを受け渡米。帰国後は企業からの誘いもあったが、夢の実現のために断り、相模工業大学(現：湘南工科大学)において念願の大学教授となった。

大学教授となってからも一層の研究に励み、振動が素早く止まる先進材料の開発、ソーラーカーやソーラー電動車いす等、宇宙の最先端から社会貢献に至るまで多くの成果をあげられた。専門分野において権威ある賞を受賞され、現在はいくつかの海外の大学でも客員教授として活躍されている。



また、湘南工科大学学長として、ポスドクの就職支援等にも取り組んでおられ、学生の夢の実現を支援している。

谷本氏は、努力を継続する強い意志が自分を支えており、がんばっていれば人生に無駄はないと話される。

会場からの質問に対しては、叱咤激励を込めて熱く応対された。

4. 実践紹介

(1) 「ものづくりの理想を求めて ～七里ヶ浜でウクレレを～」

(ukulele studio七里ヶ浜 三井達也 氏)

鎌倉市在住のウクレレ職人である三井氏は、小学生のころからものづくりが大好きであった。高校生の時に工業デザイナーになることを決心し、大学はデザイン学科に進学した。卒業後は大手自動車会社に就職し、インテリアデザイナーとして多くの車のデザインを担当した。

しばらくして、将来、管理職になるとものづくりの現場から離れてしまうことに違和感を持ち始めた。その頃、販売会社に出向し営業を担当する機会があり、多くのお客様とのふれあいを通じ、人との出逢いの大切さを実感する。また、事業を起すための経理等のノウハウを得ることもできた。

そのころ、趣味で習っていたウクレレ教室の先生がウクレレの製作をしていることに興味を持っていたところ、先生から三井氏に教室を継いでくれるよう依頼があった。悩みもしたが、自分で作り、自分で売り、自分で教え、製品に責任が持てる仕事は望んでいたものであり、この機会を逃す手はないと転職を決意した。

自分の経験や人との出逢いが新たな道を導き出すことにつながる。生涯を通じて仕事と向き合うことを考えると、自分の生きる道を見つけて、充実して取り組めるものに出会えることはとても大切であると語られた。

三井氏自身が製作したウクレレの演奏も聴かせていただくことができ、会場からも大きな拍手が起きた。



(2) 「楽しい体験を地域でプロデュース」

(三者連携ふじさわ「会長会」会長 西貝和男 氏)

三者連携の三者とは「学校・家庭・地域」である。このうち「地域」の力で、学校や家庭を支援して子どもたちの健全育成を行う取り組みについて紹介があった。

西貝氏は地元の小・中学校でPTA役員等を歴任され、近隣の学校の父親たちとともに親父の会（男の会）をつくった。「男」の文字をきっかけに田んぼ（米作り）をやることに。学校や地域の協力もあり、始めることができた。取り組んでいくうちに参加する学校も増えるとともに、会にも多くの人が集まるようになり、地域と一体となった大きな取組みとなってきた。餅つき等も行われ、年間を通じた取組みを進めることができている。

“教える”のではなく、地域の大人が子どもたちと一緒に作業をして、いい関係をつくっていくことが「人づくり」には大切であると語られた。また、無理をして取り組むのではなく、みんなが気持ちよく「いい加減」で取り組むことも大切であると話された。



5. 教育論議

「今、始めることの大切さ ～自分の道を拓くために～」

パネリスト： 高木 展郎 氏（かながわ人づくり推進ネットワーク幹事長）
三井 達也 氏（実践紹介発表者）
西貝 和男 氏（実践紹介発表者）
鶴岡貴美子 氏（かながわ人づくり推進ネットワーク幹事）
福田 幸男 氏（神奈川県教育委員会委員）
宮崎 緑 氏（神奈川県教育委員会委員）
具志堅幸司 氏（神奈川県教育委員会委員）
倉橋 泰 氏（神奈川県教育委員会委員）



講演や実践紹介を踏まえ、かながわ人づくり推進ネットワーク高木展郎幹事長をコーディネーターとして、パネリストや会場の参加者とともにこれからの神奈川の教育のあるべき姿についての論議が行われた。

かながわ教育ビジョンにある「青年期」の最中にある高校生からは、
・努力をすることの大切さがわかった。自分もこれから努力していきたい。
との発言があった。

一方、壇上のパネリストからは、
・大人になるまでに思い描いたままの道を進めることは多くない。子どもたちはいろいろな経験を通して、失敗をしながら自分を見つけ、成長していく。人づくりをする立場にある大人たちは、その手助けをすることが大事である。
・今の子どもたちは「いい子」が増えているように思う。同時に自分をアピールする積極性に乏しく、安定志向の子どもたちが増えているように思う。いろいろな体験をしながら「考える力」をつけていくことも大切なのではないか。
・教育は人の才能を引き出すことが大事。子どもたちの心や気持ちが育つ環境をつくっていくことが重要である。
・自分らしさを探求するまでに、自分で蓄えをつくる、自分づくりに勤しむ時期も大事である。
・大人が子どもを理解すること、世の中の流れを知っておくことも大切である。
といった意見が出された。

その上で、今後、人づくりを推進するためには、「かながわ教育ビジョン」の一層の推進やネットワークの充実が大切になることから、かながわ人づくり推進ネットワークの活動と現場を支える行政の取組みへ期待が語られた。

6. フォーラムのまとめに向けて

（神奈川県教育委員会 平出 彦仁 委員長）

平出教育委員長が、全体の論議を総括した。

- 親も子どもと一緒に戸惑っている時代の中にあって、目標を持って努力することは大切である。
- 歓喜と希望、孤独と苦悩が混在する青年期の子どもたちに対して大人はどんな道を示せるかという責任がある。
- 「かながわ教育ビジョン」の着実な推進に向け、企業・家庭・学校・地域が連携し、人づくりを進めることが重要である。



7. その他

会場である県立湘南高等学校からは、2名の在校生が司会として参加し、円滑に進行した。